

社会科における，思考力・表現力の育成をめざして

- 思考・表現活動を通して，多面的に考察する力をはぐくむ指導の実際 -

小西 英生

社会科の学習では，調べたことを発表する活動だけで終わらせず，自分で調べたことを基にしながら，社会の中で営まれている人々の生活についての特色やつながりなどを，広い視野で考えられるようにすることが重要である。

そこで，本研究では，「出会う」「つかむ」「調べる」「まとめる」の問題解決的な学習での「調べる」「まとめる」過程に焦点を当てて研究を進めた。その過程で，思考活動や表現活動の二つの活動を繰り返し行う場を設定することで，多様な考えに出会い，新たな視点や考え方を取り入れながら，多面的に考察する力をはぐくむことができるのではないかと考えた。

第1章 社会科学習における子どもの実態と 育成したい力

第1節 調査結果から見える

思考力・表現力の問題

近年の諸調査の分析結果を見ると，調べた事実や資料からどのようなことがいえるのかといった，社会的事象の意味について考えることや，考えたことを書きまとめたり説明したりすることに課題があることが指摘されている。そして，指導改善の方向として，調べた事実を比較し，関係づけ，総合的にとらえながら，自分の考えを再構成する学習や，自分が何を伝えたいのか言葉や文章で記述したり話し合ったりする学習を充実させることが示されている。

第2節 社会科学習で育てたい力

新しく改訂された学習指導要領では，「広い視野から地域社会や我が国の国土に対する理解を一層深め，日本人として自覚をもって国際社会で生きていくための基盤となる知識・技能を身につけること」が求められており，授業では，調べたことをそのまま書き写してまとめるだけでなく，調べたことに自分の解釈を加え，それをみんなで伝え合うことにより，自分の考えを深めていくような言語活動が重視されている。

このようなことから，社会科の学習で，社会的事象を広い視野からとらえ，思考力・表現力を育成するためには，問題解決的な学習の「調べる」「まとめる」過程において，思考活動と表現活動の二つの活動を位置づける必要があると考えた。

そのために，調べたことを文字や図に表して視覚化して考える活動や，根拠を明らかにしたり具体例を挙げたりしながら，自分の考えを書いたり話したりする活動をより充実させたいと考えた。

第2章 思考力・表現力の育成をめざして

第1節 社会科学習をより充実させるために

社会科の学習において，思考活動と表現活動のそれぞれの活動を充実させるとともに，思考 表現 思考 表現というように，思考活動と表現活動を連動させながら繰り返し行うことが必要であると考えた。自分の考えを表現し合うことで，友だちの考えと自分の考えを比べて見直すことができ，さらに，友だちの考えのよさを取り入れながらももう一度考えることで，自分の考えを深めたり広げたりすることができるのではないかと考えた。

第2節 多面的に考察するための方策

本研究では，多面的に考察する具体的な子どもの姿を“社会的事象を二つ以上の事実や方向から考えること”ととらえ，そのために，授業において，以下のような手だてが必要であると考えた。

子どもたちが，複数の事実や多様な考え方に出会えるようにするために，問題解決的な学習の過程において，単元の構想を工夫する。

自分の考えを深めたり広げたりできるようにするために，単元の「調べる」「まとめる」過程において，思考活動と表現活動を繰り返し行う場を設定する。

複数の事実や方向から考えることができるようにするために，付箋紙を活用する。

自分の考えを，根拠を明らかにしたり具体例を挙げたりしながら表現できるようにするために，考え方や話型，まとめ方のモデルを提示する。

本研究では，小学校第5学年において，以上の手だてを授業に取り入れ，実践を行った。

第3章 小学校第5学年の実践を通して

第1節 「これからの食料生産とわたしたち」 「調べる」過程

思考活動・表現活動 では、自分が調べたことから、どのようなことがいえるかを考えられるようにするために、調べた事実を水色の付箋紙に書き出した。付箋紙に書いた内容を比べて、同じ内容のもの同士を集めたり、違う内容のものを他の場所に移動させたりすることで、自分が調べた事実の共通点や差異点がわかるようにした。そして、“つまり～である。”“したがって～である。”などの文を使って、調べた事実から自分の考えを書いて、表現し合う場を設定した。

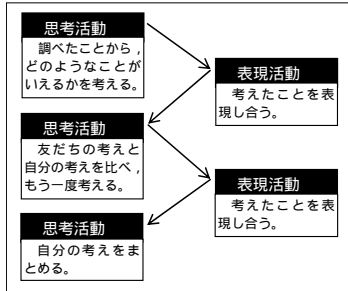


図1「調べる」過程での思考活動と表現活動

思考活動・表現活動 では、自分とは違った考えを取り入れて考えることができるようにするために、友だちの考えを聞いて、「なるほど。」「いいな!」と思ったことを、ピンク色の付箋紙に書いた。異なる色の付箋紙に、友だちの考えを書くようにすることで、今までになかった考えや違う視点などを自分の中に取り込み、考えを再構成できるようにした。そして、もう一度考えたことを“友だちの考えから～だと思った。”“友だちの考えを聞いて～だと考えた。”という文を使って、表現し合う場を設定した。

思考活動・表現活動 では、自分とは違った考えを取り入れて考えることができるようにするために、友だちの考えを聞いて、「なるほど。」「いいな!」と思ったことを、ピンク色の付箋紙に書いた。異なる色の付箋紙に、友だちの考えを書くようにすることで、今までになかった考えや違う視点などを自分の中に取り込み、考えを再構成できるようにした。そして、もう一度考えたことを“友だちの考えから～だと思った。”“友だちの考えを聞いて～だと考えた。”という文を使って、表現し合う場を設定した。

思考活動 では、これまでの思考活動 表現活動を踏まえ、「なぜ、日本は食料の輸入が多いのだろう」ということについて、自分の考えを書きまとめた。そのために、“やはり～だと考えた。”“～だけれど～だと考えた。”などの文を使って、自分の考えを書きまとめるようにした。その結果、「日本の食料の輸入が多いのは、農地面積がせまいことや外国産の食料が安いからだと思っていたけど、日本人の食生活が変化したり、農業や水産業の生産量が減ったりしていることも関係があるということがわかった。」という記述が見られた。

第2節 「わたしたちの生活と情報」

「まとめる」過程

ここでは、情報を送ったり受け取ったりする際には、どのようなことが大切かを考える活動を通して、情報化した社会の様子と国民生活のかかわりについて、広い視野から考えられるようにしたいと考えた。

思考活動・表現活動 では、書き出した付箋紙を操作しながら、メディアの良い点や問題点について考え、考えたことを、自分が選んだ方法でまとめた。そのために、新聞やちらし、テレビやラジオのニュース番組など、自分が選んだメディアの特徴を活かしてまとめることができるようにするために、まとめ方のポイントを示した具体例を提示して、それを活用しながらまとめ、表現し合う場を設定した。

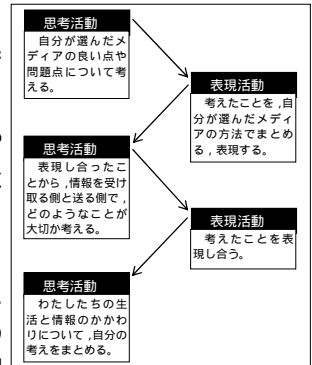


図2「まとめる」過程での思考活動と表現活動

思考活動・表現活動 では、メディアの良い点や問題点について聞いたり読み取ったりした内容を

書き込むことができるワークシートを活用し、情報を受け取る側と送る側で、どのようなことが大切かを考え、表現し合う場を設定した。

思考活動 では、これまでの思考活動 表現活動を踏まえ、私たちの生活と情報のかかわりについて、自分の考えを書きまとめるようにした。そのために、“～する側は、～が大切である。”“～にとって重要である。”などの文を使って、自分の考えをまとめるようにした。その結果、「情報を受け取るときは、同じ情報でも、いろんなメディアで確かめることが大切だと思う。」「情報を伝える側は、伝える情報に責任をもつことが大切だと思う。」「情報を得たり送ったりするときは、正確さやわかりやすさが大切だと思う。いろいろなメディアは私たちの生活に役立っている。」といった声が聞かれた。

第4章 研究の成果と課題

第1節 研究の視点について

思考活動と表現活動を繰り返し行う場面を設定し、自分の考えを表現し合ったり、交流したりすることで、自分の考えを深めたり広げたりすることができた。また、子どもたちの記述や発言からは、二つ以上の事実や方向から考えている姿を確認することができた。

第2節 多面的に考察する姿はぐくむために

板書やワークシートで調べた事実や考えを図式化して、社会的事象のつながりを視覚的にとらえられるようにしたり、自分の考えを練り合った上で、観察・調査・見学活動を取り入れたりするなどの工夫が、さらに必要である。